

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代ギリシャ語のInstrumentalとLocativeについて
Author(s)	橘, 孝司
Citation	ニダバ , 19 : 36 - 42
Issue Date	1990-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047207
Right	
Relation	



現代ギリシャ語のInstrumentalとLocative について

橘 孝 司

1. 具格 (Instrumental、「道具」を表わす格) の概念と位格 (Locative、「場所」を表わす格) の概念との境界は、必ずしも明確であるとは言えない。以下、日本語と現代ギリシャ語における具格・位格の表現形式の差異を、対照言語学的にグローズアップさせてみたい。

日本語において、「道具」の中核概念を表わす代表的な形式は助詞「で」であろう。

(1) 電気掃除機で部屋を掃除する。

(2) 電気洗濯機で衣類を洗濯する。

他方で、次のような例における「で」の意味は(1)(2)のそれとは幾分異っており、「場所」と呼ぶ方がふさわしいことを直感している。

(3) 彼は部屋で本を読んでいる。

(4) 子供達が公園で遊んでいる。

他のどのような表現形式によって言い替えが可能であるか、ということを考慮に入れないならば、(1)(2)と(3)(4)の区別は純粹に内的直感に基づくものである。それ故、「道具」と「場所」という二つの概念間の区別は、離散的なものではなく、連続的なものであり、各々の概念の中核から離れた例ほど、解釈に揺れが生じ始めるようになる。例えば、

(5) 牛乳は冷蔵庫で保存して下さい。

のように。

ところで、現代ギリシャ語では、「道具」と「場所」の概念は異なる形式で表わされる。

(6) Καθαρίζω το δωμάτιο με την ηλεκτρική σκούπα. ((1) に対応)

(7) Εκείνος διαβάζει το βιβλίο στο δωμάτιό του. ((3) ")

(8) Τα μικρά παιδιά παίζουν στο πάρκο. ((4) ")

すなわち、前置詞 με は「道具」概念、σε は「場所」概念に対応する、と簡単に言うことができよう。ところが、(2)(5)に対応するギリシャ語表現は次のようである。

(9) Πλένω ρούχα σ(με) το πλυντήριο.

(10) Το γάλα διατηρείται στο ψυγείο.¹⁾

筆者が何人かのギリシャ人に尋ねた限りでは²⁾、(9)に関しては、με も可能であるが、

$\sigma\epsilon$ の方が自然である、ということであった。(本稿では、この場合を $\sigma\epsilon(\mu\epsilon)$ 、逆の場合を $\mu\epsilon(\sigma\epsilon)$ 、いずれの前置詞も用いられる場合を $\sigma\epsilon/\mu\epsilon$ のように表わすことにする³⁾。)さて、そうすると、我々日本語話者の抱いている「道具」「場所」概念と現代ギリシャ語の前置詞 $\mu\epsilon$ 、 $\sigma\epsilon$ の持つ意味内容(以下これらをInstrumental, Locativeと呼ぶことにする)との間にはずれがあるようである。「掃除する」という行為における「掃除機」の役割と「洗濯する」「保存する」という行為における「洗濯機」「冷蔵庫」の役割とを日本語は同一のものと見なし、同一のカテゴリー(同一の前置詞表現)に含め、話者の直感によっても、両者の区別は明確ではない。これに対し、現代ギリシャ語は、両者の役割を同一のものと見ず、 $\mu\epsilon$ 、 $\sigma\epsilon$ という別々のカテゴリーに結びつけている。 $\mu\epsilon$ 、 $\sigma\epsilon$ の意味を説明するために通常用いられるInstrumental, Locativeという意味論的概念(我々日本語話者は、これらを自らの「道具」「場所」概念と重ねあわせがちであるが)はそれほど自明のものではない、と言わねばならない。

本稿では、 $\mu\epsilon$ 、 $\sigma\epsilon$ が表わすとされるInstrumental, Locativeの概念を、日本語「で」との対照を手懸りに、より明らかにすることを狙いとする。

2. まず、問題となっている二つの前置詞の基本義を確認することから始めよう。

Mackridge(1985)では、次のように述べられている⁴⁾。

The chief uses of $\mu\epsilon$ correspond broadly with English 'with' (accompaniment or instrument)...In addition, $\mu\epsilon$ also indicates means of transport and may express certain other types of means or manner.

$\sigma\epsilon$ については⁵⁾、

The prime uses of $\sigma\epsilon$ are to express (a) the indirect object, (b) position in place or time, and (c) progress towards a point in place or time.

以上の記述或いは例(6)より、「道具」概念が主に $\mu\epsilon$ に対応するのは明らかである。しかしながら、1. で述べたように、我々の直感では「道具」ととらえがちであるにもかかわらず、 $\sigma\epsilon$ と結びつくものがある。それらの例を以下に見ていこう。

(11) Φτιάχνω χυμό στο μπλέντερ.

「ミキサーでジュースをつくる。」

(12) Βράζω νερό σ(μ)ε το τσαγερό.

「ティーポットで湯を沸かす。」

(13) Ψήνω ψωμάκια σ(μ)ε την τoσσιέρα.

「トースターでパンを焼く。」

(14) Ψήνω ψάρια στην ηλεκτρική σκάρα.

「オーブンで魚を焼く。」

$\sigma\epsilon$ と結びつきたいずれの名詞も、空間的広がりを自らの内部に持っており、そこで作業

がなされる道具ばかりである。この特徴に着目して、ギリシャ語はこれらを、作業過程におけるInstrumentalではなく、Locativeとしてとらえている、と言える。この空間的広がり、必ずしも内部ばかりではない。上部の空間的広がりにおいて、作業がなされるものもある。

(15) Να τα γράψετε σ(με) την γραφομηχανή. ⁶⁾

「タイプライターで書いて下さい(=打って下さい。)」

(16) Ράβω ρούχα σ(με) την ραπτομηχανή.

「衣類をミシンで縫う。」

(17) Ζυγίζω το δέμα στην ζυγαριά.

「小包を秤で量る。」

(18) Στύβω το φρούτο σ/με το λεμονοστύφτη.

「レモンしぼり器で果物をしぼる。」

また、調理に使われるなべ類は、つねにσεを介して、様々な動詞と結びつく。

(19) Σε μια κατσαρόλα γεμάτη αλατισμένο νερό βράζετε τα μακαρόνια.

「塩水を満たしたなべで、スパゲッティをゆめます。」

(20) Σε ένα άλλο κατσαρόλακι καβουρδίζετε σε λάδι το κρεμμύδι φιλοκομμένο μέχρι να ροδίσει.

「別の小なべで、細切れにしたタマネギを、きつね色になるまで油でいためます。」

(21) Σε μια άλλη κατσαρόλα τσιγαρίζετε το κρεμμύδι...

「別のなべでタマネギをいためます。」

(22) Στο μεταξύ καψτε το λάδι και το βούτυρο σ' ένα τηγάνι και τηγανήστε το χοιρινό.

「その間に油とバターをフライパンで熱して、豚肉をいためて下さい。」

(23) Ζεστάνετε 60 γραμμάρια λάδι σε μια μεγάλη κατσαρόλα.

「油60gを大きななべで熱します。」

(24) Στην ίδια κατσαρόλα ροδίστε το σκόρδο και το κρεμμύδι φιλοκομμένα.

「同じなべで、こま切れにしたニンニクとタマネギをいためて下さい。」

(25) Λιώνετε στο κατσαρόλακι με τα υλικά το βούτυρο που χρειάζεστε για τα μακαρόνια.

「スパゲッティに必要なだけのバターを素材といっしょになべで溶かします。」

3. ここで誤解のないように注意しておきたいのだが、本稿で問題にしているのは、ある道具が本来の用途で用いられた場合、どちらの前置詞と結びつくのか、という点である。例えば、「掃除機」はσεと、「洗濯機」はμεと決して結びつかない、と主張している訳ではない。以下のような表現も可能である。

(26) Τρία ποντικάκια χορεύουν πάνω στην ηλεκτρική σκούπα.

「三匹の子ねずみが電気掃除機の上で踊っている。」

(27) Εκείνοι μπλόκαραν την πόρτα με το πλυντήριο.

「彼らは洗濯機でドアをふさいだ。」

しかし、掃除機、洗濯機の本来の用途は、「掃除すること」「洗濯すること」であって、「その上で踊ること」「ドアをふさぐこと」ではない。

4. 以上のことに注意しながら、今度はμεの例をいくつか見てみよう。

(28) Τον χτύπησα στο μέτωπο με το σφυρί.

「私は彼の額を金槌でたたいた。」

(29) Τον σκότωσαν με περίστροφο.

「彼は拳銃で殺された。」

(30) Συρράβτω τα χαρτιά με τη συρραπτική μηχανή.

「ホッチキスで紙をとじる。」

(31) Το γράφω με πένα και μελάνι.

「ペンとインキで書く。」

(32) Μετράω την ώρα με το χρονόμετρο.

「ストップウォッチで時間を計る。」

いずれも、我々の「道具」概念に一致するものばかりである。ところが、σεではなく、μεと結びつくにもかかわらず、小さいながら空間を有するものがある。

(33) Ραντίζω τα λουλούδια με το ποτιστήριο.

「じょうろで花に水をやる。」

(34) Κοσκινίζω άμμο με(σ) το κόσκινο.

「ふるいで砂をこす(=砂をふるいにかける。)」

(35) Ταγίζω το μωράκι σουπα με το κουταλάκι.

「スプーンで赤ん坊にスープを飲ませる。」

(36) Μεταφέρω τα μήλα με το καλάθι.

「籠でりんごを運ぶ。」

ティーポット(12)とじょうろ(33)などは道具としての構造に大差はないのに、前者はLocative、後者はInstrumentalとしてとらえられている。したがって、με、σεの選択には、空間の有無以外に何らかの意味的特徴が関与している、と考えなければならない。

そこで、μεの他の例を見てみよう。

先のMackridge (1985, p. 215) でも述べられていたように、移動・交通手段を示すにはμεが用いられる。

(37) Πηγαίνω στο πανεπιστήμιο με το λεωφορείο κάθε μέρα.

「バスで毎日大学へ行く。」

(38) Μ' αρέσει να ταξιδεύω με πλοίο.

「船で旅をするのが好きだ。」

行為者自身が交通手段を操縦する場合も同様である。

(39) Μετέφεραν πετρέλαιο με το τάνκερ.

「タンカーで石油を運搬したい」

また、次のような場合も με が使われる。

(40) Ανεβαίνω στον τρίτο όροφο με το ασανσέρ.

「エレベーターで四階へ上る。」

「タンカー」「エレベーター」はいずれもその内部に人・貨物のための空間を有しているけれども、その作業の内容は、ある場所から他の場所へ、それらを移動させることにある。このような場合、現代ギリシャ語は、Instrumentalとしてとらえるようである。

さて、こういう角度からもう一度、μεと結びつく例(28)－(36)を見てみるならば、いずれも、作業中行為者が操作し、その作業の必要性に応じて位置を変えるものばかりである。他方で、μεの選択に関しては、道具における空間の有無は非関与的、ということになる。

これに対し、σεと結びつく例(9)－(25)は、ある場所に据えつけられて、そこで作業の行われるものが多い。ある場所に据えつけられたままである、というこの特徴は、同時に、作業中行為者によって行為をしかけられる度合いが με の場合よりも少ない、という点につながる。例えば、ティーポット(12)そのものは簡単に動かし得るけれども、少なくとも作業(湯をわかす)の間は、通常ある場所(ガスコンロ等)に置かれたままであり、その作業過程が終わるまで行為者が行為をしかけることはほとんどない。ティーポットとじょうろ(33)が、構造的には類似しているにもかかわらず、機能的には異なるカテゴリーに入れられるのは、この特徴が関与していると思われる。

また、作業中ある場所に据えつけられていても、行為者が行為をしかける度合いが高いものほど、σεと並んで με も用いられ得るようになる(例ミシン(16)、タイプライター(15))。

さらに、ある場所に据えつけられているとは言え、作業がなされる上で、行為者の手により行為がしかけられることが不可欠であり、同時に、その作業のなされる空間が小さなものほど、Locative、Instrumentalのどちらの観点からもとらえられ得るようになる。

(例えばレモンしぼり器(18))。

以上挙げた、空間の大小という条件と作業中の動きの程度という条件とは、実際の道具にあっては、関連し合っていることが多い。現実の問題として、大きな空間を持つ道具ほど、必然的に全体の大きさが増し、行為者の手によって動かされることがより困難になるからである。以下の文ペア参照のこと。

(41) Αλέθω σιτάρι στο μύλο.

「臼で小麦粉を挽く。」

(42) Αλέθω καφέ με(σ) τον ηλεκτρικό μύλο.

「コーヒー挽き機でコーヒーを挽く。」

ただし、大型の道具であるからと言って、大きな空間を持つとは限らない。次のような例ではσεは用いられ得ない。

(43) Οργώνω χωράφι με το τρακτέρ.

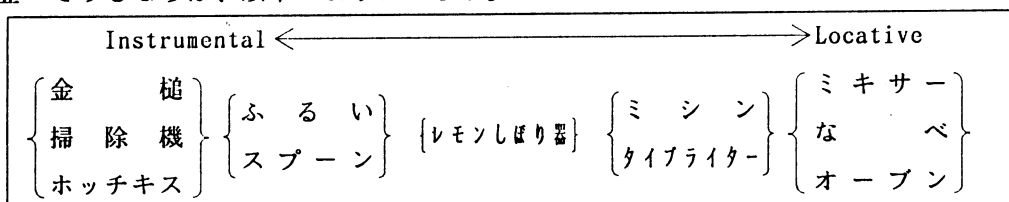
「トラクターで畑を耕す。」

5. 以上の考察を通じて導き出された結論をまとめておく。

a) 我々の「道具」概念に一致するように思われても、空間を有し、作業中ある場所に据えつけられたままで、その空間において作業が行われ、行為者が行為をしかけることが少ないものほど、現代ギリシャ語は、locativeとしてとらえ、σεと結びつける。

b) しかし、たとえ空間を有していても、作業中、行為者によって操作され、その作業の必要性に応じて位置を変え、さらに、その空間の小さなものほど、Instrumentalとしてとらえ、μεと結びつける。

これまでに見てきた具体例のいくつかを、Instrumental, Locativeのスケールにそって並べてみるならば、以下のようなろう。



左から右へ行くほど、Instrumentalではなく、Locativeとしてとらえられるようになる。

このように我々の「道具」概念に対応するμε, σεがCamitative、Allativeの機能をもあわせ持つことは 2. で見た通りであるが、これらの機能をも含めて考慮した場合、με, σε各々の全体の機能についてどのような意義素が抽出され得るのか、という点については、今後の課題としたい。

注

1) 箱入り牛乳のパッケージには次のように書かれている。

Διατηρείται στο ψυγείο.

ギリシャ人に対する質問表には最初次の文を書いておいたところ、わざとらしい人工的な文である、と言われた。

Κρύβω κρασί _____ το ψυγείο.

「ワインを冷蔵庫で冷やす」

同じ状況を表わす、より自然な表現を尋ねると、次のようである、と言う。

Βάζω κρασί στο ψυγείο για να κρυώσει.

「ワインを冷すために冷蔵庫に置く」

σεはLocativeの他にAllativeも表すから、βάζω「置く」という動詞がこの前置詞をとるのは当然であるが、本稿で問題にされている機能とは関係ないので、ここに記すにとどめておく。

2) 次の方々にインフォーマントになっていただいた、ここにその御名前を記して、感謝の意を表したい。

Νικόλαος Γ. Κοντοσόπουλος

Θεόδωρος Μάλλωσης

Σπύρος Πετρίτσος

Ευαγγελία Γιαννούλη

3) σεは異形態としてσを持つのでσ(με)、με(σ)のような場合もあり得る。

4) p. 215

5) p. 206

6) 同じ状況を表わすのに、次のような表現もあり得る。

το χτυπώ στη μηχανή. (<taper à la machine)

το δακτυλογραφώ στη μηχανή.

N. Γ. Κοντοσόπουλος教授の御教示によれば、最初のはガリシズム表現らしい。

参考文献

Τζάρτζανος, Α. Α. (1946. 再版1989) Νεοελληνική Σύνταξις 1. Θεσσαλονίκη.

Mackridge, P. (1985) The Modern Greek Language. Oxford Univ. Press.